

# 災害の記憶とともに

## 地震・津波の被害

記録が残る地震・津波の被害は、宝永4年（1707）の宝永地震からです。この時は、方津戸峠の麓や別所勝楽寺のあたりまで船が流されてきたという記録があります。

そのおよそ150年後に起こった安政地震では、湯浅村の家屋被害は村全体の4分の3に及んだようです。被災後、湯浅村では中間層以上の家からそれぞれの財力に応じて供出を受け、被災者の救済にあたったことが知られています。この震災を記録し後世に戒めを伝える石碑が、深専寺門前に残されています。



深専寺「大地震津波心得之記」碑

## 台風や豪雨による被害

紀伊半島は、台風や豪雨に悩まされてきました。湯浅町には大河川がないため、周辺に比べると被害の記録は少ないといえます。昭和28年（1953）の7・18水害では、近隣市町の支援にあたりました。昭和36年（1961）の第二室戸台風では、高潮と高波による越波の影響などで被害が発生しています。



第2室戸台風の被害（栖原）

## 火災と醸造家の防災意識

人口密集地でありながら、湯浅の旧市街地で大火と呼べるような火災の記録は承応年間（1652～55）と寛文3年（1663）のもの以降は確認できません。火を使う醸造業が盛んな湯浅では、日頃からの防火意識の高さがあったのかもしれませんが。



角長の自衛消防用具

最勝寺（嘉永七年寅霜月津波記）●

角長（醤油醸造関連用具（消火用具等））●

福蔵寺●

● 深専寺（「大地震津波心得の記」碑）

湯浅町

別所

坂部池